



すずか倶楽部 後藤 光雄 議員

- 1 市民サービスについて
- 2 小学校グラウンドの芝生化について
- 3 南玉垣・白子土地区画整理事業について

質問1(1) 職員の座席表を県庁のように表示しては。

答弁1(1) 県庁のように壁に表示する事は難しいかもしれないが、前向きに取り組んでいく。

質問1(2) エレベーターの階数表示をするのに1階のみで約2百万円、全階で約9百万円と取付建築工事費で可能だが取付けられないか。

答弁1(2) 検討してみる。

質問2(1) 芝生化モニター事業を実施中の国府小学校の芝生の状況と維持管理状況は。

答弁2(1) 3年間の維持管理を寄付で行ってもらっ

ているが、全面敷設から野球の内野部分を除外して利用方法を模索している。

質問2(2) 今後市内他の小学校に拡大するのか。

答弁2(2) 具体的な計画はないが検討する。

質問3(1) 旧NTT研修センタ跡地の整備事業計画が8月1日NTTとURから発表されたが隣接する旭が丘小学校への影響はないか。

答弁3(1) 計画では360戸程が増えるが、児童数の予測は収容定員1,090人以内で対応可能。

質問3(2) 計画上の施設系用地に、市長公約のJリーグ開催可能のフットボール場建設を考えないか。

答弁3(2) 県営鈴鹿スポーツガーデン整備の中で行えるよう県に連携をもって要望していく。



すずか倶楽部 南条 雄士 議員

- 1 教育努力目標と中学校給食
 - (1)教育努力目標に対する教育委員会の姿勢と中学校給食について

質問1 教育努力目標に掲げる目指す子ども像に対して、鈴鹿市の子どもの学力・体力水準の現状を問う。

答弁1 学力水準は、多少の高低はあるが、ほぼ全国平均。努力を要すると判定される分野もある。体力水準は、ほとんどの種目で全国平均を下回っている。

質問2 中学校完全給食にかかる予算の内訳を問う。

答弁2 整備費総額28億円のうち、国から2億円、市債6億円、一般財源20億円を見込んでいる。

質問3 交付金を除く26億円という数字は、体育館や

武道場が約10施設建設できる金額である。26億円を、社会教育の場や災害時の避難所にもなる体育館の改修・改築や武道場の新築に使うことによって、遅れている施設整備の水準を向上させ、年間約2.5億円かかる給食センター維持管理費を、学力・体力を向上させるための独自教員採用や独自教材作製費用に充てるのが教育予算の正しい用途ではないか。

答弁3 他の教育サービス低下に繋がらないよう知恵を絞り、中学校給食センターを設置したい。

質問4 学校教育・家庭教育が充実していれば中学校給食は必要ないという理想形を追うべきではないか。

答弁4 生徒が家庭を教育する効果を中学校給食に期待する。家庭弁当の教育効果を否定するものではないので、給食だけでなく「弁当の日」を設けたい。

6月定例会の南条雄士議員の一般質問につきましては、議会だより第167号(平成23年8月5日発行)に掲載予定でしたが、発言内容の精査の都合により掲載を見送っておりましたので、改めて今号に掲載させていただきます。

- 1 選挙結果について市長に問う
- 2 市長の政治姿勢について
 - (1)政治家としての思想・信条を問う
 - (2)「対話と協働」「選択と集中」等の真意を問う

質問1 投票者の約6割、有権者の約8割に市長として選ばれていないことへの自覚が伺えないが。

答弁1 重責を痛感している。選挙の結果については、真摯に受け止め、これからの市政運営を通じ市民の皆様の期待に応えていきたい。

質問2(1) 自民党の肩書を大々的に利用しながら、三重県知事選挙において民主党推薦候補のみを応援した事実は、市民への背信行為に思えるが、今後も市長としてそのような政治姿勢をとり続けるのか。

答弁2(1) 市民の皆様の考え等を正確に把握したい。対話より生まれる信頼と理解は行政のかなめと思う。

質問2(2) 税収が落ち込む中、限られた財源は市民の生命財産を守る施策に集中させるべきで、教育施策においても、耐用年数を迎える校舎や屋内運動場の建替え等を、災害時の基幹的避難所にもなることから優先課題とすべきである。しかし市長は、最低でも数十億の財源が必要で、更には愛情弁当に比べ教育効果の低い中学校完全給食の実現のみを、次期選挙直前を期限として最優先課題にしてしまった。これこそ自らが他を批判した「パフォーマンス」では。市民の命は市長のパフォーマンスよりも軽いのか。

答弁2(2) 愛情弁当は大事だが、給食を重要な食育の場、子育ての場と位置づけ、家庭との連携を図りながら推進していきたい。